

KPECnews

Vol.58
2013.5.1

K i t a k y u s h u P r o s p e r i t y E n r i c h m e n t C o u n c i l

c o n t e n t s

- 01 世界に広がる北九州の明日を考える講演会開催
- 02 もったいない総研の活動
- 03 産業人材育成フォーラム事業3年目を迎えて順調に！
- 04 北九州の企業人による小学校応援団の活動
- 05 1000人の夢寄金
- 06 ひまわり塾
- 07-08 北九州イノベーションギャラリー 活動紹介
- 09-10 企業におけるサステナビリティ経営戦略(CSV)とは



公益財団法人 北九州活性化協議会

世界に広がる北九州の 明日を考える講演会の開催



第4回「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を、平成25年3月4日、リーガロイヤルホテル小倉で開催した。講師は、世界的な優良企業経営者として注目度が高い(株)小松製作所取締役会長の坂根正弘氏。政府が設置した産業競争力会議のメンバーとなった時の人でもあり、500人を超える参加があった。

演題は「ダントツ経営～日本国籍グローバル企業に自信あり～」、常に「企業価値とは何なのか」を追求し、世界の変化を見据えグローバル競争に負けないとの信念を持って世界で戦い、また日本経済の成長のために努力を惜しまない姿勢は、参加者に感動を与えた。





世界に広がる北九州の明日を考える講演会開催



世界に広がる北九州の明日を考える講演会は、北九州市の経済団体の連携により平成20年から継続開催をしている。(下表参照)

第4回目となる今回は、2001年度には創業以来初の赤字となったものの、「経営の見える化」「成長とコストの分離」「強みを磨き弱みを改革」などの大胆な構造改革で、グローバル企業としての礎を築き上げられた(株)小松製作所 坂根正弘会長をお招きして、追隨を許さないダントツ経営の手法を語っていただいた。政府が設置した産業競争力会議のメンバーに選ばれた「時の人」であり、多くの参加者が詰めかけた。世界経済の動向、日本の進むべき指針、世界で戦う企業の人材づくり、当市の明るい未来について考える貴重な機会となった。

日 時 平成25年3月4日(月) 13:30～15:00
会 場 リーガロイヤルホテル小倉
テーマ 「ダントツ経営ー日本国籍グローバル企業に自信ありー」
主 催 北九州商工会議所
共 催 北九州市、(公財)北九州活性化協議会、(公社)北九州貿易協会
 (一社)、北九州中小企業経営者協会、(一社)西日本工業倶楽部
 (一社)北九州青年会議所、(社)北九州青年経営者会議



ご講演の概要

2001年度、創業以来巨額の赤字となった時期にバトンを受け取った。6代目の社長として6年間、代を重ねるごとに強くなる会社はその会社なりの企業価値をどう考えるか、その答えはまだ出ていない。しかし、世界の変化を見据えてきた会社は、世界のグローバル競争で負けることがないとの信念をもっている。

モノづくりには自信を持っていて、モノづくりで負けるわけがないというのが当時の認識だった。しかし、なぜコマツが赤字なのかを考えた。製造コストで負けてないのに他のコストで負けているなら、徹底して削除しようと決心した。300あった子会社を110に減らし、一回だけ全社員に手紙を送って希望退職を募った。また、日本でしか売れないものは止めて、世界で1位、2位にできない商品は作らないこととした。

コマツの強みはモノづくりであるので、ここを徹底的に磨かなければならない。「環境・安全・IT」をキーワードに他社に絶対に負けない「ダントツ製品」をつくれと指示した。世界に先駆けて発売したGPS搭載のハイブリッド建機や完全無人ダンプトラック等がその製品である。

リーダーにとって言葉は命。見る(本質を「見る」事が出発点)、語る(言葉と伝え方が人と組織を動かす)、実行する(誠意のない言葉に人はついてこない)、これを実行すると、違っている部分も出てきて、見るに戻る。これを永遠と繰り返していくしかない。

日本の強さ・弱さは、「技術で勝って、ビジネスで負ける」こと。下の人に好きようにさせることでいい技術はできるが、トップがそれに早くから目をつけて手を打たなければ負ける。例として、無人ダンプトラックを実用化できそうになったとき、無線LANの会社を買収したことがある。

社会とステークホルダーから、「コマツでないと困る」と思われるかを計測できれば企業価値がわかる。株主、金融機関、マスコミ、お客様はコマツの企業価値を評価する人で、お客様、協力企業、社員はコマツの企業価値を作る人、お客様は双方に入り、「お客様にとってコマツでないと困る度合いを高める」ことが、ブランドマネジメントである。

坂根正弘氏のプロフィール

昭和 16年 1月 7日生まれ 島根県出身
 昭和 38年 3月 大阪市立大学 工学部卒業
 昭和 38年 4月 株式会社小松製作所入社
 平成 2年 11月 小松ドレッサーカンパニー社長
 平成 6年 6月 常務取締役
 平成 9年 6月 経営企画室長 専務取締役
 平成 11年 6月 代表取締役副社長
 平成 13年 6月 代表取締役社長
 平成 15年 6月 代表取締役社長兼CEO
 平成 19年 6月 代表取締役会長
 平成 22年 6月 取締役会長 就任
 平成 25年 1月 「産業競争力会議」委員
 現在に至る



□「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」の開催実績

回	開催日	講 師	テーマ	参加者数
第1回	平成20年11月18日	トヨタ自動車株式会社 相談役・技監 池淵 浩介 氏	「グローバル経営とトヨタウェイ」	600人
第2回	平成22年7月2日	内閣府「新しい公共」円卓会議 座長 金子 郁容 氏	「街は誰のためにあるのか 一新しい公共の創造ー」	520人
第3回	平成23年7月7日	新日本製鐵株式会社 会長 三村 明夫 氏	「企業経営における危機と変化」	640人
第4回	平成25年3月4日	コマツ株式会社 会長 坂根 正弘 氏	「ダントツ経営ー日本国籍グローバル企業に自信ありー」	600人



もったいない総研の活動

もったいない総研は、世界の環境首都を目指す北九州市の環境政策を踏まえ、一昨年に認定された「環境未来都市」の実現に向けて、市民・企業・大学・行政の協働の場づくりと「もったいない精神(こころ)」の普及のための情報交流機会の創出を行っている。平成24年度は下記の事業に取り組んだ。

1 もったいないスクール2012

(一社)北九州青年会議所と共同で「セーブエネルギープロジェクト」に取り組んだ。市内の中学生が参加して活動する「北九州ドリームサミット」事業のなかで、エネルギー(電気)の大切さを市民が楽しみながら体験でき、節電への思いを高めることに取り組んだ。延べ600名以上の市民に自転車発電を体験してもらい、「エネルギーを作り出すことの大変さ」を発信した。



学2年生へ「環境」をテーマとした作文を募集した。1,039件もの応募があり、優秀作品として8点を選出した。北九州市環境局長 今永博氏にご臨席頂き、表彰した。



5 もったいない塾(講演会)

もったいない塾は北九州にアースデイ(地球の日)を生み出すきっかけ作りを行った。アースデイとは1970年にアメリカで始まった環境イベントで、G・ネルソン上院議員が4月22日を“地球のことを考えて行動する日”として宣言したことに始まる。もったいない総研が「ひまわり塾」20期生などアースデイの立ち上げ有志を支援し、設立に至った。



2 ライトダウン&キャンドルナイト北九州2012

環境省の「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」や、民間団体の「百万人のキャンドルナイト」の趣旨に賛同し、夏至の日にライトダウン&キャンドルナイトの呼びかけを行った。



電気を消して、灯火を見つめながら、家族・大切な人・私たちの住む地球環境について少しだけ考える時間と空間を共有するきっかけ作りを行った。

3 食と農のプロジェクト

身体にやさしい有機栽培で育てた地元の農産物を消費者に紹介し、環境に貢献しながら、地元食文化の継承や子供たちの食育を進める活動を行っている。

自然農業を営み、九州のエコビレッジのメッカになっているTAOリトリートビレッジを訪問し、農業体験やマクロビオテックのセミナーを聴講した。また、北九州市内の有機栽培農家や、有機栽培を取り扱っているレストラン、ショップなどを発掘し、もったいない総研のホームページで紹介した。

4 環境「もったいない」作文

未来を担う子供たちが環境問題への関心を深めることを目的として、北九州市PTA協議会と共催し、北九州市内の中

6 ラジオもったいない塾

持続可能な低炭素社会を実現するため、FM KITAQの番組 エココロWindにて、毎月第3日曜日の夜8時～9時「ラジオもったいない塾」と名うち、「環境」にまつわる話題を提供し将来のビジョンや明るい未来を語り紡いでいる。

7 年長者研修大学校での講義

北九州市立年長者研修大学校(穴生学舎、周望学舎)の「暮らしと環境」コースにおいて、「もったいない総研の取り組み」のテーマで講演を行った。北九州活性化協議会の沿革や活動の成果、今後の方針等も含め、「もったいない総研」の活動状況を説明した。



産業人材育成フォーラム事業3年目を迎えて順調に！

平成23年5月に産学官協働で発足させた「北九州地域産業人材育成フォーラム」は、「地域連携型インターンシップ」の開発・実施をはじめとして、産業人材の育成と活用に関わる全てのステークホルダーが、「CSV（事業を営む地域社会の課題解決に対応しながら、みずからの競争力を高める経営）」を理念とし、それぞれの役割を果たしながら多様な事業を展開しています。

1 第3回「産業人材育成セミナー」開催

「北九州の確かな未来づくり大学、企業、そして、地域社会は何をすべきか」を共通テーマとして、「産業人材育成セミナー&産学交流会」を開催。（詳細はP9-10）

「インターンシップの経営的活用を考える」パネルディスカッションでは、戸畑ターレット工作所、濱田重工(株)、(株)サンアークTOTO、計測検査(株)、北九州市立大学、九州工業大学の学生によるインターンシップ活用事例が発表され、学生側からは、目的達成型のインターンシップの重要性やインターンシップを通じて考える就活戦略など、多様なインターンシップの効用が発表された。



2 「顔の見える産学交流会」の開催

大学の壁が高いという地元企業の声を踏まえて、産業人材育成セミナーのアフターコンベンションとして、産学交流「顔の見える大学、企業の産学交流会」を企画した。会場には大学関係者 50名、企業関係者 66名の116名の参加者が、新しいイノベーション創出のための産学のコミュニケーション機会として、大いに交流を深めた。



3 平成24年度 インターンシップ事業参加者倍増！

産業人材育成フォーラムの中核事業である「地域連携型インターンシップ」は、北九州活性化協議会に事務局を設け、地元大学・高専と企業の連携により実施する新しい地域教育システムで、2年目の事業は、参加企業59社、九州工業大学・北九州市立大学・西日本工業大学、北九州工業高等専門学校の4校の学生121名(留学生の4名)の参加を得て、規模、内容共に拡充した実施となりました。



4 第2回 社会人プログラム会議開催

産業人材育成フォーラムの研究プロジェクトの一つ「社会人プログラム（ドクターチャレンジPT）会議（プロジェクトリーダー：九工大水垣善夫副工学院院长）」が委員全員出席



で開かれ、①九州工業大学の社会人プログラムを活用した北九州ドクターチャレンジプログラムの編成 ②地域の中堅・中小企業の技術人材のリカレント教育を目的とした出前講義の企画、開発等のH25年度事業計画を決定した。

5 「学生のための北九州企業発見ツアー」を実施

北九州商工会議所の「産業観光推進」事業プログラムと北九州地域産業人材育成フォーラムのインターンシップ事業プログラムを連携して、北九州



地域の対象大学の全学生を対象にした「学生のための北九州企業発見ツアー」を実施した。

多くが全国各地から参集し、卒業後は全国各地に展開する学生に、本市の産業を見学、学習してもらい、企業訪問を通じて、学生の「社会人マナー」や「就業意識」の向上を図るとともに、北九州市に対する理解を深めてもらい、地場企業の認知を向上し、地場企業の魅力を発見してもらうことが目的。

○見学企業

シャボン玉石けん(株)、三菱重工業(株)下関造船所、(株)戸畑ターレット工作所、TOTO(株)、(株)安川電機、日産自動車九州(株)

○参加者数

学生79名（九州工業大学63名、北九州市立大学10名、西工大4名、北九州高専2名）

北九州の企業人による小学校応援団の活動

1 児童の学習支援（出前授業および体験学習）

（株）安川電機による「走り方教室」は陸上部の専門性が活かされ走るタイムが向上した。シャボン玉石けんの「環境にやさしい石鹸」では、実験もあり石鹸の環境への影響を理解した。西鉄バスの「安全教室」では、大型バスを使って、バスの死角や内輪差を体験した。さらに、企救丘小で開催された一連の「憧れの職業」では、努力することの大切さを学んだ。

その他、新日鐵住金（株）による「空き缶リサイクル」、九電による「エネルギー出前授業」、TOTOによる「水資源保護」など合計16の支援活動を行った。



走り方教室



環境にやさしい石鹸



安全教室



空き缶リサイクル

2 教員研修支援

7月、福屋建設（株）と門司印刷（株）が門司中央小学校で人材育成や経営目標について講演した。経営目標が利益と信頼を大切するように、教育でも成績と心が大切であること、目標は少し高めに設定することを再確認した。9月、（株）KBSが萩原小学校でマナー研修を行った。最近の学校では注意してくれる先輩が少なくなっており、第三者による指摘が効果的であることが分かった。2月にTOTOが大蔵小学校でクレーム研修を行った。企業クレーム対応における心構えが学校でも参考になった。

また、8月に西鉄バスが採用10年目研修の社会体験学習として4人を3日間受け入れた。企業の仕事の進め方、社員の考え方や姿勢が良い刺激となった。

3 親学・PTA活動支援

昨年7月、（株）九電工及び関連会社の従業員約150人を対象に、大里東小学校校長と中井小学校校長が「小学校教育の現状と家庭教育のあり方」をテーマに、公共マナーや生活習慣に関する躾けなど家庭教育の役割の必要性について



（株）九電工 講習会における親学 食育講座

講演された。

今年2月、（株）かば田食品の柿田社長が中原小学校PTAを対象に企業経営と食の安心・安全など食育について講演した。魚の産地表示が漁場でなく船籍であること、加工用食材は塩と冷蔵で長期保存できること、欧州の馬肉混入事件のように人材育成が食の安全に必要であることなど、保護者らは熱心に聴講された。

4 学校と企業-地域との連携

■モデル校の支援ニーズ調査

児童に対する出前授業に関しては、ものづくり-産業、郷土-歴史、環境教育や国際理解など社会科や総合学習に関連したテーマの要望のほか、子ども達に将来の夢や目標を抱かせることを目的とした、憧れの職業紹介や活躍する社会人の創意工夫などの体験談が求められた。

教員研修への講師派遣に関しては、苦情対応、リスク管理、危機管理、個人情報管理や人材育成に関した事例紹介などが求められた。また、教員の意識改革を進めるため、会社経営の努力や姿勢を伝える講演などが求められた。

その他、学校行事への支援、環境整備、登下校時の見守り活動、アフタースクールの学習補助などが求められた。

■小学校応援団参加企業の支援情報の提供

出前授業や教員研修に関する支援ニーズを応援団参加企業に報告、協力の意向を確認して、約40社を訪問し、支援プログラムの提案をお願いした。

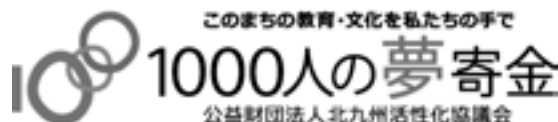
その結果、出前授業20件、体験学習7件、協研修講師派遣4件、教員社会体験受け入れ3件、親学講座2件の支援プログラムを提案があり、6月末より順次モデル校に紹介した。

5 北州市立小学校の民間人校長登用に対する協力

市教育委員会の依頼を受け、小学校応援団に参加する大手17社に校長候補者の推薦をお願いしたところ、TOTOと福岡銀行から各三人の推薦をいただいた。市教育委員会で選考を行い、新開 毅さん（株）TOTO）と久富繁雄さん（株）福岡銀行）が採用され、平成25年1～3月の研修期間を経て、4月に校長として正式採用された。



1000人の夢寄金



1000人の夢寄金は、当協議会が独自に行う事業で、趣旨に賛同する法人・個人・団体から広く寄付金を集め、市民の教育・文化活動に対する活動費用の助成を行うことによりこのまちの都市格の向上を図ることを目的としている。平成22年より事業方針について検討してきたが、このほど事業の立ち上げを行い、皆様からいただいた寄付金を基にして第1回目の助成先を決定した。

1. 設立記念行事

1000人の夢寄金は、平成24年9月18日に活動をスタートした。同日ホームページもオープン。また、平成24年10月31日北九州市立商工貿易会館多目的ホールにて、当寄金のキックオフイベントとして「北九州の心を紡ぐ集い」を開催した。当日は、250名を超える方々が参加。基調講演として元NHK会長の福地茂雄氏に「このまちの教育・文化をあなたの手で」のテーマで講演いただいた後、「きたきゅうのうた」で大賞を受賞したシンガーソングライターの富永裕輔氏のライブを行い、「1000人の夢寄金」事業の本格的なスタートを切った。



2. 寄付事業

(1) 1000人委員会の結成

1000人の夢寄金では、市民の気持ちを集め、みんなで力をあわせてこのまちの教育・文化活動を支援していくため、新たな寄付方法として1000人の夢寄金事業で中核として活動する「1000人委員会」をスタートさせた。「1000人委員会」においては、1年に1度、1口3,000円の寄付をいただき、継続的に教育・文化活動を支援していく活動を行うもので、ご寄付をいただいた方々が「1000人委員会」メンバーとなり寄付金事業を支えていく仕組みとなっている。今後、この「1000人委員会」メン

バー各々が会員を増やしていくことにより、当寄金の事業規模を拡大していくこととしている。

(2) 寄付金事業

平成24年9月の設立から平成25年3月までの期間で、「1000人委員会」を中心とした募金活動により、217件、総額1,975,000円のご寄付をいただいた。今回いただいた寄付のうち、件数について個人の寄付が88%を占め、市民一人ひとりの気持ちを集めてみんなの力で支援していくという形が具現化され、1000人の夢寄金事業の基礎を作ることができた。

3. 助成先の決定

第1回目となる助成は、平成25年1月15日より1月31日の募集期間で10件の応募があり、書類審査・プレゼンテーション審査を経て平成25年3月末までに助成先を決定。これまでに所望した寄付金の中から1,349,000円を次の4事業に助成することとなった。

□ 第1回 助成先

助成先団体名	事業名	事業概要
親子のしゃべり場『ふわわ』	ZOO と居たくなる！おしゃべりホットルーム	育児サークルや育児講座などに出てこれられない、いわゆる「ひきこもり」親子が最初の一步を踏み出すための居場所づくりに取り組む親と子のための教育事業
北九州しねま研究会	第3回北九州市民映画祭	営利目的で上映されない質の高い、多様なジャンルの映画上映や地域出身映画監督との意見交換の場を創出し、北九州市民による市民主体型映画文化の振興を図る事業
ひまわり実行委員会	ひまわりアートプロジェクト	こどもたちに「ひまわりの絵」を描いてもらい、「こどもたちと創る北九州の未来 ～ひまわりを咲かせよう～ 絵画展」を開催。文化を通じた情操教育を図る事業
北九州映画サークル協議会	創立60周年記念 小津安二郎「浮草物語」上映会	1953年から北九州未公開の世界各地の名作を中心に毎月上映会を開催。その創立60周年記念としてサイレント映画ピアニスト柳下美恵伴奏による小津安二郎監督「浮草物語」の上映会を開催する文化事業

4. 寄付のお願い

1000人の夢寄金事業の趣旨及び寄付状況等をホームページでお知らせしています。

<http://www.kpec.or.jp/yume> 今後とも皆様の支援をお願いします。



ひまわり塾 ～第20期が研究成果を発表／ひまわり塾大同窓会を開催～

「ひまわり塾」は、企業人と市職員が協働して“まちづくり”について学習し考える講座として北九州活性化協議会と北九州市が共催で実施している。第20期グループ研究発表会・閉講式および第21期開講式が、平成24年7月6日（金）ステーションホテル小倉にて開催された。また、平成25年2月17日（日）ホテルクラウンパレス小倉にてひまわり塾大同窓会を開催し、第1期から21期まで総勢100名の塾生が参加した。

第20期のグループ研究発表

各グループとも工夫をこらした熱心な発表により聴衆に感動を与えた。

テーマ

北九州のイメージアップ!!

北九州おひとりさま上手の会（市職員3名、民間5名）

北九州市民が持っている「暮らしやすい街」のイメージと、外から見た悪いイメージのギャップを無くす方策の検討を行い、実行に移した。

情報発信の手段としてソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を活用し、ひとり

でも気軽に楽しめるお店やスポットを紹介、市民にも来街者にも北九州を好きになってもらう仕掛けづくりを行った。

活動期間中にチームが発信した記事を読んだ人は12万人に上り、当初の目的を達成した。

グランプリ表彰式のような



テーマ

「さりげなくエコ」をみんなと分かち合える街づくり

エコ研Meister's（市職員3名、民間5名）

環境意識が高い街を目指しながら、気楽に地球のことや環境について市民が身近に感じる活動や、北九州を盛り上げ活気のある街をめざしてたくさんの人に楽しんで貰えるイベントを企画し実行した。

「環境未来都市」北九州で初めてとなる「アースデイ北九州」を立ち上げ、「食」を通して「地球にやさしいこと」のトークショーを開催した。



テーマ

住民と地域の絆づくりの活動部隊

地域コミュニティ班 チームKIZUNA（市職員3名、民間5名）

地域コミュニティの活性化のため、地域の伝統芸能等に注目して、小倉南区の「道原楽」や若松区の「島郷四国八十八ヶ所」など埋もれつつある財産を掘り起こし、価値を再認識して世代間をつなげる活動を行った。

雨乞行事として演じられてきた「道原楽」については、調査を重ねる中で、廃れるかもしれないとの危機感を覚えた。そのため、すぐお小学校でゲストティーチャー授業を実施、次世代への継承への手ごたえを実感した。



第20期グループ研究発表会

名誉塾長の北橋健治北九州市長、塾長の小嶋一碩KPEC理事長から活動に対する熱いメッセージを頂き、またコーディネーターの（有）感動ファクトリー代表取締役金丸勝利氏、北九州市小倉北区役所企画広報担当課長 大谷俊介氏、同経済産業局観光部集客交流担当課長 富原明博氏が講評を行なった。

第20期生を代表して三島光産株式会社の丸山拓哉氏が北橋市長から修了証書を授与され、北九州市財政局の水摩慎一郎氏が1年間の活動を振り返り、また第21期生を代表して西日本電信電話株式会社の中



名誉塾長
北橋 健治
北九州市長



塾長
小嶋 一碩
KPEC理事長

ひまわり塾大同窓会

平成4年から北九州市とKPECが共同で運営してきた「ひまわり塾」の卒業生は官民合せ642名に上る。卒業生から「同窓会」の開催や、「連絡網」「気軽に集まれる場」の設置を望む声があり、大同窓会の実施となった。

当日は「ワールドカフェ」の手法を使って『ひまわり塾の「いま」そして「これから」』をテーマに参加者が意見交換を行い、現役塾生が取組中の活動状況を発表した。また、Facebookを卒業生の情報連絡網に活用することとなった。



ワールドカフェの様子

北九州イノベーションギャラリー 活動紹介

1. 企画展示

産業技術・デザインおよびイノベーションに関連したテーマを独自の視点から、下記の企画展を開催した。

春企画展	「伝える→電話・ケータイ展」
夏企画展	「創る・造る・作る 手づくりあそび展」
秋企画展 併設展示	「夢をかたちに・産業デザインの世界」 「若戸大橋開通50周年記念巡回展」 (資料提供:北九州道路公社)
冬企画展 併設展示	「レオナルド・ダ・ヴィンチ もう一つの遺産」 「北九州イノベーター列伝」 「イノベーションのたまご展(福岡発)」

春企画展では、のろし、モールス信号から携帯電話に至った伝える技術の変遷とスマートフォンが可能とする利用技術を紹介した。

夏企画展では、“遊び”が製品化された“使う遊び”に慣れた子供たちに、想像や工夫を必要とする“手づくりあそび”の楽しさを紹介した。

秋企画展では、生活の中にある家電製品などのデザインの変化や公共空間のデザインを紹介するとともに、カーデザインの現場などを体感頂いた。連動したワークショップ「カーデザインの現場体験」では、(株) マツダ デザイン部スタッフを招き、小学生ら78名が熱心にデッサンやクレイモデルの指導を受けていた。

冬企画展では、ダ・ヴィンチの遺した貴重な手稿や素描に加え、それに基づいて再現された模型など約100点の展示を通して、ルネサンスの先駆的な科学技術者の研究成果を紹介した。(ダ・ヴィンチの才能は絵画に留まらず、機械、建築、天文、解剖学など幅広い分野にわたり、観察や実験に基づく科学的構想は、自動車やヘリコプター、クレーンなどの原型を成している)

2. 教育普及事業

1-1 技術者向けプログラム

(1) イノベーションフォーラム

今後のイノベーションへの取組みとして産学官連携を取り上げ、下記フォーラムを開催した。

① イノベーションフォーラムⅠ

○テーマ

「教育・科学技術・イノベーションの一体推進のすすめ」



イノベーション創出人材を育成するためには、従来の縦割り型の教育・研究だけでは不十分である。

産学官の連携による統合型人材育成の必要性を論じた。

○講師 柘植 綾夫 氏

日本工学会会長、元総合科学技術会議議員、前芝浦工業大学学長、元三菱重工業代表取締役・常務技術本部長

② イノベーションフォーラムⅡ

○テーマ 「先端・伝統技術を融合したイノベーションの創出 ―産学公連携・京都の事例―」

○講師 松重 和美 氏

京都大学名誉教授
(元副学長・知財・産学連携担当)



京都において産学公連携で成果をあげている事例についてご講演頂き、引き続きパネリストを交え、北九州と京都の取組み状況などを討議した。

(2) 技術革新講座

今後市場拡大が期待される医療分野を取り上げ、「技術イノベーションの最前線～医療の視点から」を年間テーマに、最新の医療技術や動向について紹介した。

○テーマ 「体内を外から診る～画像診断技術の挑戦」

○講師 金 亨燮 氏

九州工業大学大学院工学研究院
機械知能工学研究系 教授

○テーマ 「体内に入って診る・治す？

～医用マイクロマシンの挑戦」

○講師 生田 幸士 氏

東京大学先端科学技術研究センター 教授

○テーマ 「がんを狙い撃つ!? ～放射線技術の挑戦」

○講師 平井 悦郎 氏

三菱重工業株式会社 機械・鉄構事業本部
先端機器事業推進部 部長 工学博士
溝脇 尚志 氏
京都大学大学院医学研究科
放射線腫瘍学・画像応用治療学 准教授

○テーマ 「人と機械を繋ぐ!?

～BMI(ブレインマシンインターフェイス)技術の挑戦」

○講師 平田 雅之 氏

大阪大学 医学系研究科 特任准教授

(3) デザイン講座

グローバルな視野から人間生活のあり方と有り様を捉え、九州や北九州などローカルな生活シーンの理性と感性の融合による感性価値を可視化する「関係のデザイン」を年間テーマに、森田昌嗣九州大学大学院・教授をコーディネーターにデザイン講座を開催した。



- テーマ 「伝えるデザインの大切さ」
- 講師 澄川 伸一 氏
澄川伸一デザイン事務所代表
- テーマ 「エモーショナルデザイン
人の感情に訴えるデザイン手法」
- 講師 橋田 規子 氏
芝浦工業大学 デザイン工学科
プロダクトデザイン領域
- テーマ 「地域で発想するビジネスデザインの力」
- 講師 濱口 秀司 氏
ziba 戦略ディレクター

1-2 青少年向け教育事業

小中学生に対しては体験学習を、高校生に対しては経営者や技術者の経験談などを中心とした下記プログラムを推進した。

① ものづくり講座

北九州工業高等専門学校、戸畑工業高校、小倉工業高校で出前授業を4回（777名）開催し、ものづくりへの理解促進に努めた。

② 小中学生向けワークショップなど

3年目となる「世界一行きたい科学広場 IN 北九州2012」は、多くの小中学生の関心を引く事業になった。（1770名）また、東田サマースクール、市民たたら、ものづくり小学生新聞、親子工作教室、ものづくりミニ体験等を開催し、もの



づくりへの関心を高めた。

③ キャリア教育

職場体験プログラム（2日間）は2回6名の中学生を受け入れ、接遇業務などを体験した。また、企業訪問ワークショップでは、17名の中学生が有蘭製作所と日鉄エレクトクスを訪問し、ものづくりの取り組みなどを学んだ。

④ KIGSプロジェクト

戸畑工業高校電気科の学生を中心に、非常時携帯型ソー

ラーパワー ST.（改良・実証）ワーキングを推進。校舎屋上にソーラパネルを設置、実証データの測定などを行い、ソーラーパワー STの改良を行った。



1-3 市民向け事業

地域の皆様にもものづくりや産業史への理解を深めるため、下記プログラムを推進した。

① 市民講座

「フェイスブックを有効活用している人（企業）の実例はコレだ」、「小倉織—縞縞のブランディングと可能性」、「海を越えた夢の海底鉄道トンネル実現まで」、「関門トンネル用交直流電流電気機関車の開発 EF30物語」

② イノベーション見学ツアー

「門司のいま！ 製塩工場と港湾事業をめぐる」、「若戸大橋バックヤード見学と洞海湾クルージング」、「港町下関の歴史・文化・近代遺産に触れるツアー」、「製菓のルーツに触れる工場見学」

3. 調査研究

産業技術を理解して頂くためには、個々の技術に秘められた創意工夫、技術者の思い、社会や文化が技術革新に与えた影響、さらには、技術革新が社会に与えた影響などを分かり易い形で伝える必要がある。平成24年度は下記テーマの調査研究に取り組んだ。

「北九州における板ガラス産業の歴史と発展」

北九州市は日本で始めて板ガラスの量産体制を整備した地域としてこの産業の発展に大きな役割を果たしてきた。専門家に委嘱し、板ガラス産業と技術の発展を総合的に整理した。

「鑄造技術の系統化調査」

北九州は鉄鋼業の発展に寄与するとともに、戸畑鑄物に代表されるよう鑄物の技術革新が先駆的に行われた。国立科学博物館と共同で、鑄物技術の進歩の経過を整理した。

「北九州の産業発展・都市発展と交通の関係」

北九州では、海底トンネルや長大吊橋の建設など交通インフラ技術への先駆的な取り組みが行われている。研究機関に委託し、交通インフラが北九州の技術に与えた影響を整理した。

その他に「北九州イノベーター列伝Ⅱ」と「マイスターによる効果的な技術指導～精密手仕上げ作業」の調査を行った。



企業におけるサステナビリティ経営戦略(CSV)とは



(地域環境を起点とした攻めの経営手法・貢献から戦略へ)

(第3回「産業人材育成フォーラム基調講演抜粋」)

日 時 平成25年3月11日(月) 15:00 ~ 17:40

会 場 北九州国際会議場 2階 国際会議室

参加者 187名

演 題 企業におけるサステナビリティ経営戦略(CSV)とは
ー 地域環境を起点とした攻めの経営手法 ー

講 師 水上 武彦 氏(株式会社クレアン CSRコンサルタント)



地域ぐるみで北九州の産業人材基盤の強化・整備を目指すフォーラム事業への理解と参画・協働を促すことを目的に、「北九州の確かな未来づくり大学、企業、そして、地域社会は何をすべきか」を共通テーマとして、「産業人材育成セミナー&産学交流会」を開催しました。

基調講演では、株式会社クレアンCSRコンサルタントの水上武彦氏が、「企業におけるサステナビリティ経営戦略(CSV)とはー地域環境を起点とした攻めの経営手法ー」と題して、社会問題の解決と企業の利益、競争力向上を両立させ、社会と企業の両方に価値を生み出すための経営フレームワークであるCSV(Creating Shared Value)について講演しました。

講演の趣旨

東日本大震災以降、多くの企業が被災地の復興に貢献する取り組みを行っている。

こうした取り組みで被災地の復興・復興を長期にわたって支援できるのか。そもそもCSR(企業の社会的責任)とは何か。今回の震災はこの問いを企業に改めて突きつけている。震災からの復興に戦略的に対応することによって、日本企業が新たに目指すべき方向も見えてくるのではないと思われる。

そうした新たな方向を探るうえで着目したのが、企業の競争戦略論の世界的第一人者として知られる米ハーバード大学のマイケ

ル・ポーター教授が新たに提唱した「Creating Shared Value(以下、CSV) = 企業は社会と共有できる価値を創出すべき」というコンセプトである。

このCSVのコンセプトとフレームワークは、日本企業が社会の課題解決への対応と自社の競争力強化を両立させる戦略を考える際に大いに参考となる。

もともと日本企業の多くは、「日本の社会を発展させる」という強い意識を持って成長してきた。日本企業の強さは「社会の発展のために」「社会の課題を解決するために」活動する時にこそ発揮される。しかし日本経済が右肩上がり成長していた時代とは異なり、そこには戦略性が必要である。

CSVと3つのアプローチ

CSVは、①製品・サービスという企業活動のアウトプット ②バリューチェーンという企業活動そのもの ③企業活動と社会との関係性を通じて、社会問題を解決しようとするもの。

CSVの3つのアプローチ	社会問題を解決する製品・サービスの提供(製品・サービスのCSV)	社会問題を事業機会と捉え、自社の製品・サービスで如何に社会問題を解決するかの探索を通じた新規事業創発・推進 ○代表例: GEのエコマジネーション、トヨタのプリウス、各種BOPビジネス
	バリューチェーンの競争力強化と社会への貢献の両立(バリューチェーンのCSV)	効率化を通じたコスト削減、サプライヤー育成を通じた高品質原料の安定供給等、バリューチェーンを(新たな視点で)最適化しつつ社会問題を解決 ○代表例: 流通業による輸送ルート最適化を通じた環境負荷軽減、食品企業による原料農家育成
	事業展開地域での競争基盤強化と地域への貢献の両立(クラスター/競争基盤のCSV)	事業展開地域における人材、周辺産業、輸送インフラ、市場の透明性等を自ら強化することを通じ、地域に貢献しつつ、自社の競争力を向上 ○代表例: IT企業による地域のIT教育支援を通じたIT人材という競争基盤の強化

本講演では、「Creating Shared Value」という考え方を日本企業の実行例も取り上げながら、企業と社会との新たな関係のあり方を探る。

CSV (Creating Shared Value) とは

CSV (Creating Shared Value) とは、社会問題の解決と企業の利益、競争力向上を両立させ、社会と企業の両方に価値を生み出すための経営フレームワークと定義される。

CSVの基本的考え方

- ① 現在の資本主義および企業活動は、種々の社会問題を生み出しており、持続可能性に懸念がある。
- ② 政府の課題解決力には限界があり、企業による社会問題が期待され、実際、企業にはそのポテンシャルがある。
- ③ 企業が持続可能な社会の構築に向けた社会の期待に応えるには、従来のCSRや社会貢献活動では不十分で、事業活動そのものを通じた社会問題の解決が求められる。
- ④ 社会の期待に応え、事業活動を通じた社会問題の解決により社会との共生を目指す企業が、長期的な成功を手に入れることができる。

CSV推進に向けた押さえどころ

(CSV推進に向けては、以下が求められる。)

① トップマネジメントのコミットメント

利益と社会貢献が両立するという考えが十分浸透していない状況では、トップがその重要性を訴え続ける必要がある

② CSVを推進するビジョン/方針の明確化

CSVのような新しいコンセプトを全社的に推進する場合には、全社として明確な目指す姿(ビジョン)や方向性(方針など)を打ち出すことが重要

③ ステークホルダー・エンゲージメント

CSV推進のためには、ステークホルダーとの対話を通じた社会トレンドの理解や、実践におけるステークホルダーとの協業が重要



④ CSVを推進しやすい仕組み/プロセス整備

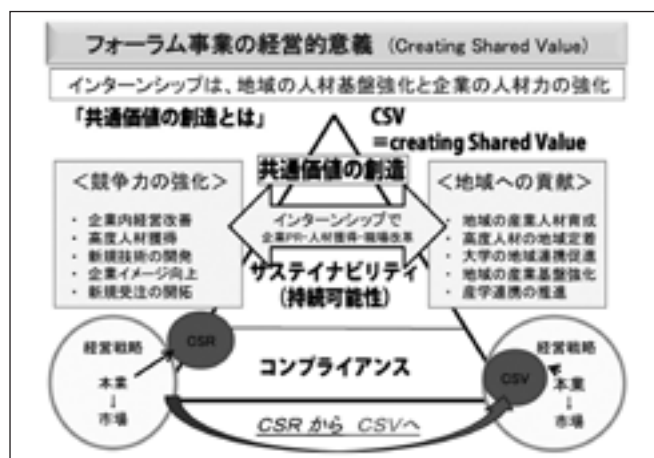
CSVは、長期的な取組みが求められ、長期で見た価値を生み出すもので、事業開発、評価などで従来と異なるプロセスが必要

⑤ イノベーションを生み出す風土の醸成

CSVは、新しいアイデア、新しい価値創出が求められるイノベーションであり、自由な発想や行動を促進する組織風土が必要

「北九州地域産業人材育成フォーラム」は、 クラスター / 競争基盤のCSVである

「地域連携型インターンシップ」を通じ、中堅・中小企業の経営力強化と高度地域人材育成の両立を目指す「北九州地域産業人材育成フォーラム」は、「クラスター / 競争基盤のCSV」のロールモデルとして、北九州地域活性化にとって重要な取り組みである。



クラスター / 競争基盤のCSV(事例) 北九州地域産業人材育成フォーラム

北九州地域産業人材育成フォーラムは、「地域連携型インターンシップ」を通じ、中堅・中小企業の経営力強化と高度地域人材育成の両立を目指す。

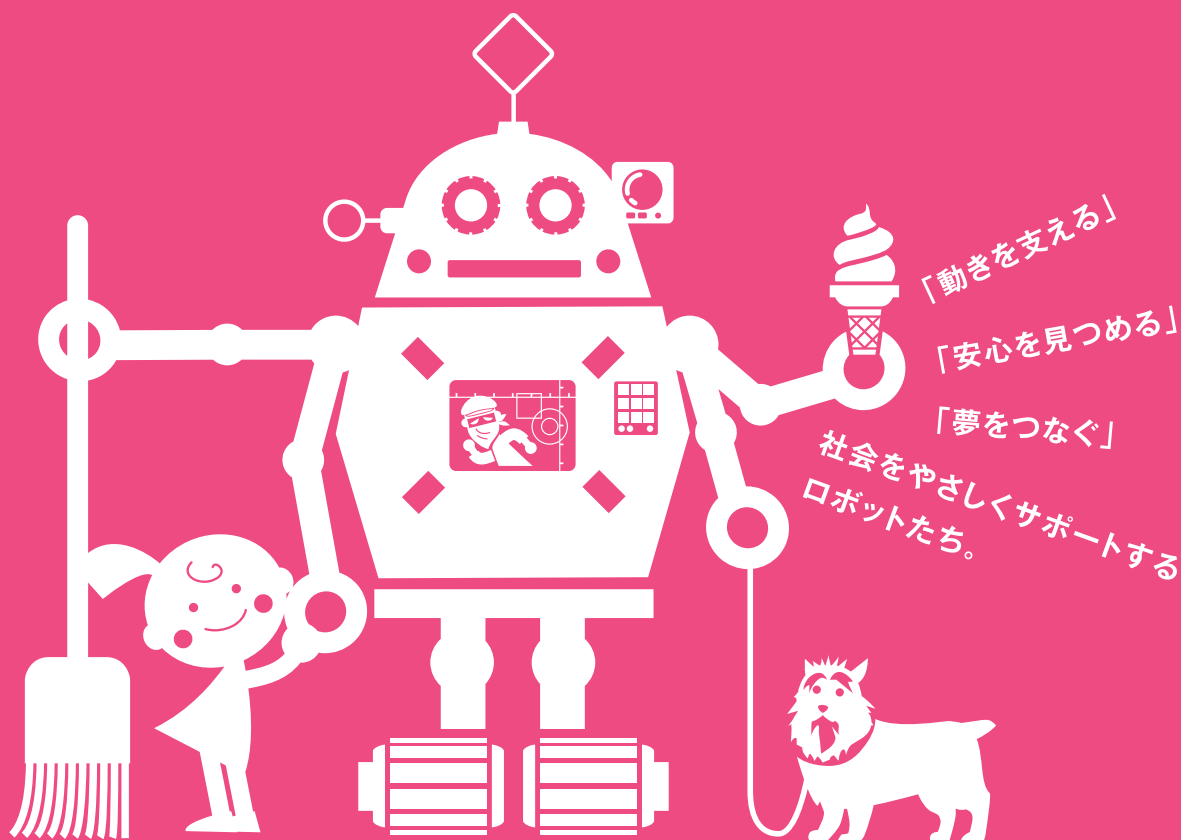
概要
グローバル化が進展し、製造業の海外移転の動きが活発化する中、ものづくりのまち—北九州においても、産業基盤の維持・強化が課題となる
そうした中、産学官民の連携・協働による産業人材育成のための都市システム創りを目指して、「北九州地域産業人材育成フォーラム」が発足
地域の理工系学生の社会人基礎力の向上と中堅・中小企業の高高度人材採用機会の創出を目的とした「地域連携型インターンシップ」を中核として、産業人材育成事業を推進

社会にとっての価値
高度地域人材の育成を通じた、北九州地域のものづくり活性化
学生に地元の中堅・中小企業への就職という選択肢の魅力を理解させ、社会の多様性を促進し、活性化
自社にとっての価値
インターンおよび就職を通じた優秀な若手の確保
優秀な若手の能力、発想力を生かした自社の経営力強化

Robot

ヒトと共にあるロボット展

頼もしきサポーターたち



2013. 3.30(土) → 6.30(日)

北九州イノベーションギャラリー

福岡県北九州市八幡東区東田2-2-11 tel. 093-663-5411 <http://www.kigs.jp/>

開館時間 ▶ 9:00 ~ 19:00 (土・日・祝日は17:00まで) ※企画展示室への入場は閉場時間の30分前まで

休 館 日 ▶ 毎週月曜日 ※祝日の場合は翌日・5月2日(木)

入 場 料 ▶ 一般: 500円 学生(小中高): 250円 ※団体30名以上は2割引、障害者割引有り

主催 ▶ 北九州市、北九州イノベーションギャラリー

後援 ▶ ロボット産業振興会議、北九州ロボットフォーラム、福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、北九州市PTA協議会、北九州商工会議所、J R九州、西鉄バス北九州(株)

協賛 ▶ 日本ロボット工業会、ロボットビジネス推進協議会

協力 ▶ 産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、北九州工業高等専門学校、東京工業大学、東京理科大学、川田工業(株)、セコム(株)、大和ハウス工業(株)、(株)テムザック、トヨタ自動車(株)、白山工業(株)、(株)ハートウォーカージャパン、パナソニック(株)、本田技研工業(株)、三菱重工業(株)、(株)安川電機 (順不同)

ワタシも
やってくるよ!



KIGS
北九州イノベーションギャラリー
北九州イノベーションギャラリー
指定管理者 公益財団法人北九州活性化協議会

■ (公財)北九州活性化協議会は北九州イノベーションギャラリーの指定管理者として運営管理を行っております。

編集・発行 (公財)北九州活性化協議会

〒802-0082 北九州市小倉北区古船場町1番35号北九州市立商工貿易会館 6階
TEL (093) 541-3122(代) FAX (093) 541-0636 <http://www.kpec.or.jp>

KPEC NEWS